

たどり、古い赤布を探しながら進む。休憩時、テルモスのホットココアが本当にうまい。2605m

から手が出るほど食へたが、この夜も一杯飲み、おかずを作っているうち、毛利は飯を食わず

で他界されたという。私と毛利が1988年の初日を浴び、東天井

今季の冬山合宿で、それぞれの隊の行動（歩いた）日数をみると、

A隊が2日、B・C隊が3日である。行動2日ぐらいで冬山合宿と言えるだろうか。勿論、会員すべてが、長期合宿に取り組めというのではない。年輩者はともかく、若い会員が2日ぐらいの山行で冬山合宿だと満足してしまうのではない。年輩者はともかく、西穂の縦走、静岡労山は穂高縦走に滝谷のクライミングを取り入れなど、私達はまだその足もとに

も及ばない。できるできないの問題ではなく、現状で満足してしまうようでは向上は望めない。（文中敬称略）  
(88年3月27日発行機関誌「くろゆり」第16号に収録)  
解説  
この年A隊は涸沢岳西尾根、B・C隊は日程違いだが燕岳に登った。北鎌のステップとして、成果のある冬山であった。

# 北鎌尾根

3180m  
杉澤 康秀

●七倉～北鎌尾根～槍ヶ岳～槍平

～新穂高

▽88年12月29日～89年1月3日

△C・毛利哲也(55) S・杉澤康秀

(39) S・後藤隆徳(41) 会計山田

茂(44) 医療栗原一郎(34) 食糧藤

巻郁雄(33) 装備渡辺昭二(26)

車輪サポート山本康平(沼津労山)

「とりくみ」

冬の北鎌尾根は長年の懸案だったが、会員の志向の違いやレベルが揃わないなどで、待つこと数年にしてやっと実現した。86年と88年の春合宿での経験を踏まえての取り組みなので、今回のメンバー

は全員残雪期経験者である。

12月29日(晴)

△(タイム)三島16:30～下土狩(各

戸経由) 18:30～七倉23:50(泊)

後藤宅を始発にして隊員各戸を車

で回って行く順序も計画書に記され

ていたが、藤巻君から連絡があり、

5時半過ぎでないと出られないでし

り早くなつたので、みんな慌ててしまふ。やはり、年末は忙しいのだ。

渡辺君は年末の多忙な時期に山へいくということで、家業と共にやって入ったのは5時半過

12月30日(晴)  
ヘタイム>登山口5:33～ダム上部6:55～7:13～名無沢避難小屋9:15～湯俣11:00～吊橋13:15～千天出合13:35(泊)

登山指導センターに

計画書を提出。係員よ

り注意事項の説明を聞

く。(1)今年は例年より

雪が多い(2)入山者が少

ない(3)湯俣でメン

バーの体調を判断し、

思わしくないものは下

山させよ、という指導

だつた。山本さんの見

送りを受けて、全員が

登山口のトンネルに

入ったのは5時半過

いるお父さんと言い争いまでして出でてきたとのこと。結局、車の回収担当を引き受けてくれた沼津労山の山本さんを含め8名全員が乗り込んで長泉町を出たのが18時半。籠坂～中央道～長野道料金～大町と積雪なしで順調。大町市郊外の高瀬入口で夕イマチエーン着装。24時ちょっと前に七倉駐車場に到着。テントを張つて、8名ここで泊まる。

ぎ。高瀬ダムの登りでは3パティーが相前後する。午前中の毛利氏は二日酔い気味で辛ううなで、荷物を分担して軽くする。湯俣から先は積雪もやや増え、丸木橋や足場が凍っている部分もあり、重い荷を背負っていると慎重なバランスを要求される。傾いた吊り橋は、床板部分に雪が積もっていることが春と違うだけでこれといって苦労は

